

六期生

# 衆しかったあの頃

山中 将司

卒業以来最早々年余りの歳月を経た今日  
 過ぎし日の事を思い出すこと大に感ずる  
 を感ずると共に一糸の耕しを覚ゆる様  
 である。というよりは高津時代のクラブ活動  
 が良きにつけ悪しきにつけ自家に残り、今  
 考へれば何でもなかつた。些細な当時の  
 出来事の一ツ一ツが鮮やかに我々の脳裏に  
 刻み込まれていて、いさゝかえ、クラブに  
 の時代は今日の隆盛に比し、かえ、クラブに  
 とつて全く苦しい時代だつたといふ事。  
 常に部員の不足に悩まされ先輩諸氏の熱心  
 なる指導で練習はやり乍ら所謂体系的な熱心  
 のがなく華々しい成果を挙げることが出来な  
 かつた次第です。併しとにかく今から当時  
 を振り返ると総て衆しかつたといふ一言に  
 尽さる様です。この言葉で表現出来ない様  
 な衆しさという事を現在の現役のクラブ員  
 諸君にも感じて欲しいと思つて置きます。私共  
 同年のクラブ員の高津時代に演じた種々  
 のエピソードを挙げ様と思つて置きます。又章  
 にして表わす事が出ない様に思ひます。  
 この様なクラブ誌を作る事が出来るのはグ  
 ラブが順調に発展してゐる事を証明するに

他がらぬ事だと思ひます。最後に立派な先  
 輩を持ち又之派な伝統を受け継ぎ、輝やか  
 い成果を挙げてくれる後輩諸氏に対して御  
 礼を申し上げる次第です。  
 完

七期生

一九五二年九月〜一九五五年三月

# 私のハンドボール生活

松田 一彦

始めに期間として一九五二年九月と書い  
 た理由は、私が九月よりハンドボール部に  
 入つたからだ。同期生の内、既に私よりも  
 前に入つていたのは、後に関学大に進み現  
 在丸善石油に勤務している榎本君、同じ大  
 学に進み現在は津田鋼材にいる宮崎君、途  
 中三年生で止めた大和証券の広田君であつ  
 た。私が九月に入つて約一週間の練習であ  
 り、初めて対外試合があつた。対生野高校であ  
 る。その頃私は初めての試合故要領を得ず  
 うろうろとフールドの一人として頭数を揃  
 えていた様な印象としてのみ記憶してゐる。  
 当時のフールドは、二身山中和泉北中、一  
 身榎本私田であつたと思ふ。結局対生野高  
 校試合の成績は五―二位で敗れた。其の後  
 一―二試合対外試合をしたと思ふが、記憶  
 が明確でないのは、省略するが印象深く記憶  
 されているのは、一年大会での成績である。